

都道府県別にみた実質労働生産性上昇率

- 都道府県にみた実質労働生産性上昇率が最も高いのは愛媛県（前年度比＋8.2％／2021年度）。
- 他の地域で上位になっているのは、熊本県（同＋7.5％）や大分県（同＋7.3％）、鹿児島県（同＋6.7％）など。

実質労働生産性上昇率（前年度比・％／2021年度）		実質労働生産性上昇率（前年度比・％／2021年度）	
北海道	2.4%	滋賀県	3.4%
青森県	2.3%	京都府	6.6%
岩手県	1.0%	大阪府	2.3%
宮城県	2.5%	兵庫県	4.1%
秋田県	3.9%	奈良県	2.0%
山形県	2.5%	和歌山県	5.8%
福島県	3.4%	鳥取県	3.7%
茨城県	6.1%	島根県	2.8%
栃木県	2.2%	岡山県	5.9%
群馬県	5.1%	広島県	3.4%
埼玉県	4.8%	山口県	5.7%
千葉県	2.7%	徳島県	4.9%
東京都	3.4%	香川県	6.4%
神奈川県	2.9%	愛媛県	8.2%
新潟県	2.4%	高知県	1.3%
富山県	4.7%	福岡県	3.0%
石川県	4.2%	佐賀県	5.6%
福井県	4.4%	長崎県	-0.1%
山梨県	3.9%	熊本県	7.5%
長野県	5.2%	大分県	7.3%
岐阜県	4.4%	宮崎県	2.2%
静岡県	3.5%	鹿児島県	6.7%
愛知県	3.4%	沖縄県	2.2%
三重県	3.8%	都道府県平均	3.6%

※内閣府「県民経済計算」をもとに日本生産性本部作成